

第七章 日本の祭り×まちづくり

はるか昔から日本で行われてきた神事的要素を含む祭りは、人々の生活の一部として溶け込み、親しまれてきた。長い間、神仏習合に基づいて祭りは行われてきたが、明治維新とともに政府に発せられた「神仏分離令」によって、祭りや催事は中止に追いやられた。しかし、終戦後、伝統を引き継いだ人たちにより復興され、現代では伝統的な祭りや地元での楽しみだけでなく、観光アピールや町興しを目的とした新しい祭りやフェスティバルが全国各地で開催されている。

現在、地域の少子高齢化による人口減少が問題となっている。その中で、日本の各地で、地域の魅力を高め、ブランド化し、その活性化を図ろうという動きが展開されている。本稿では、まちづくりや町興しに欠かせない存在となっている「祭り」に着目し、その誕生や歴史の変遷をたどり、有名な事例を挙げながら具体的に紐解いていく。まちづくりにおける「祭り」の重要性や、今後の「祭り」の在り方について考えていく。